

リーダーは自分の足跡を残す

リーダーは常に先頭に立って、公私にわたる立ち居振る舞いの良さと共にチームを引っ張っていくことは勿論のことですが、自分の足跡を見える形で残していくことも大事です。

チームの経営数字や業務目標に加えて、業務上の新しい手法の開発等、改革・改善を常に意識して進めていくことが、チームの活性化に繋がっていきます。

例えばプロ野球の選手でチームの選手会長やキャプテンを務めている選手は毎年何らかの数字や立ち居振る舞いで好印象を残している。野手のリーダーは打率・打点・ホームラン・出塁率・盗塁・得点圏打率等々、投手のリーダーは登板数・完投・完封・勝敗・勝率・防御率・無四球・ホールド・セーブ数等々何らかの形で数字を残している。手法の開発では食事の改善・肉体の改善・準備運動や打撃練習・走塁練習・ピッチング練習で効果的な方法を取り入れたり、試合場面で相手チームの投手や打者のクセを見ぬいて対応、伝授したり、ピンチの場面で声掛けや精神的なアドバイスをしたり、チームのメンバーに一目おかれ、愛され、チームを鼓舞しています。

高齢者住宅業界も施設ごとに様々な目標値をもって動いていますが、各部門のリーダーはどうでしょうか？入居促進で効果的なツールや入居ルートの開発、生活支援グループでは喜ばれる



アクティビティや行事の開発、介護・看護グループでは身体機能の改善・維持・向上、残存能力の活用や危険予知とその対策、業務グループでは効率・効果的なシステムの導入など、検討するといくつでもあるはずです。

私自身も運営経験の中で様々なことに取り組んできました。ホーム内の居心地の良い空間作りとして、月毎に廊下に展示の花の写真を交換、入居検討者にホーム内の生活の様子が見えるビデオの作成、生活提案書、書籍「介護に役立つ思いやりのアイデア」の発刊、営業では様々な新規入居ルートや告知先の開発、個人紹介ルートの開発、経営面では施設長研修の開発、入居者がより元気になる高齢者住宅の開設等々、足跡を残してきました。

現場は常に動いています。運営の中で決められた体制や費用の中でやり尽くしたという事はないと思います。チームリーダーは常に現場に目を向けて、改革・改善を意識しながらやっていくべきです。実績、足跡は後輩や部下に伝わっていき、チームの伝統となって生きていくものだと思います。チームリーダーのあなたはいくつの心に残る足跡があるでしょうか！



長嶺 堅二郎